

令和3年度東京都自立支援協議会  
(第2回本会議)

令和4年2月28日

東京都心身障害者福祉センター

(午後1時31分 開会)

○森下課長 お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから令和3年度東京都自立支援協議会第2回本会議を開会させていただきます。

本日はお忙しい中、委員の皆様には本会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本協議会事務局の東京都心身障害者福祉センター地域支援課長の森下でございます。議事に入りますまでの間、進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

初めに、配布資料の確認をお願いします。

資料は、メール及び郵送でお送りしております。次第に配布資料の一覧を記載してございます。

資料1から資料7まで、参考資料1から参考資料5までを用意しております。参考資料5と訂正した次第につきましては、直前での送付となりました。申し訳ございませんでした。資料につきましては、議事進行の中で、説明をさせていただきます。

次に、委員の出席状況でございます。

本日は、岩本会長、押尾委員、神作委員、茅沼委員、久保委員、齋藤委員、須藤委員、村中委員からご欠席との連絡をいただいております。本日はオンラインで開催しておりますので、オンラインの接続確認も兼ねて、ご出席の委員の皆様をご紹介します。なお、藤井委員、柳瀬委員がまだオンライン会議にお入りいただいておりますが、出席の連絡をいただいております。

資料2、第7期東京都自立支援協議会委員名簿の順にご紹介いたしますので、マイクをオンにしてお返事をしていただければと思います。

初めに、1番、秋元副会長です。

○秋元副会長 はい、よろしくお願いいたします。

○森下課長 お願いします。

2番、石川副会長です。

○石川副会長 はい、よろしくお願いいたします。

○森下課長 7番、九鬼委員です。

○九鬼委員 はい、よろしくお願いいたします。

○森下課長 9番、小阪委員です。

○小阪委員 はい、お願いします。

○森下課長 11番、佐々木委員です。

○佐々木委員 よろしくお願いします。

○森下課長 12番、佐藤委員です。

○佐藤委員 はい、佐藤です。よろしくお願いいたします。

○森下課長 14番、中村委員です。

○中村委員 よろしくよろしくお願いいたします。

○森下課長 15番、西田委員です。

○西田委員 よろしくよろしくお願いいたします。

○森下課長 18番、森山副会長です。

○森山副会長 よろしくお願いします。

○森下課長 20番、山地委員です。

○山地委員 よろしくよろしくお願いいたします。

○森下課長 柳瀬委員が入られたようなので、柳瀬委員、お願いします。

○柳瀬委員 はい、すみません。遅くなっちゃって、すみません。

○森下課長 よろしくお願いします。

続きまして、会議の公開について説明いたします。資料1、東京都自立支援協議会設置要綱第8の規定により、協議会において取り組んだ検討課題や社会資源の開発等の取組について、地域の関係機関等や地域住民も含め幅広く周知を行うこととされておりますが、本日は、新型コロナウイルス

ス感染症の感染拡大防止のため、傍聴はお断りしております。なお、記録のために写真撮影と録音をさせていただきますとともに、資料及び議事録につきましては、ホームページで公開させていただきますので、ご了承の程よろしくお願いたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、東京都心身障害者福祉センター所長の梶野よりご挨拶申し上げます。

○梶野所長 今、ご紹介がございました心身障害者福祉センター所長の梶野でございます。

委員の皆様には、日頃から東京都の障害者福祉施策の推進にご理解ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

また、本日は2月も最終日ということで、年度末も近づきまして、大変お忙しいところ、令和3年度東京都自立支援協議会第2回本会議にご出席いただき、重ねて御礼を申し上げます。

さて、皆様ご案内のとおり、第7期の東京都自立支援協議会のテーマは、「都と地域の協議会活動における情報共有を促進し、当事者とともに地域課題への取組を考える」でございます。

そして、今年度は、「当事者の視点に立って地域課題を検討する」を活動方針としまして、本会議や各グループでご議論いただきまして、その内容を交流会、また、セミナーの企画としてご提案をいただくことで、地域の協議会活動の活性化や都の協議会活動の普及啓発を推進してまいりました。

本日は、こうした活動の振り返りと来年度に向けた課題等について、ご議論いただくこととしております。

また、令和3年度版の東京都内の自立支援協議会の動向の調査内容につきましても、ご協議いただきまして、都と地域協議会の活動をさらに促進し、都民の方々にも広く周知してまいりたいと考えております。

なお、先程からお伝えしておりますように、本日の会議はオンライン形式で開催しております。昨年度から、この本会議ではオンライン形式を導入しておりまして、委員の皆様にはオンライン又は会場参加のいずれかということで選択していただいておりますが、今回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けまして、オンライン参加のみとさせていただきます。

ご不便をおかけするところもあろうかと思いますが、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

年度内、最後の本会議となりますので、来年度の協議会活動に向けまして、幅広くご意見をいただけるようお願いいたしまして、簡単ですが、開会のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○森下課長 ありがとうございます。

続きまして、事務局から連絡事項がございます。本日はオンラインで開催をしております。円滑に議事を進行するため、ご協力をお願いいたします。

発言のある方は、オンライン会議の挙手ボタンを表示してください。画面上の手のひらのアイコンが表示されている場合は、こちらをマウスで1回クリックをしてください。表示が出ていない場合などは、カメラに向かって手をあげていただいても構いません。発言は指名があつてから願いたします。また、発言の最初にお名前をおっしゃってください。誰かに話しかける時や質問をする時は、最初に「〇〇委員にお伺いします」とお伝えください。発言時以外は、音声をミュートにしてください。

以上、よろしくお願いいたします。

それでは、これより議事に入ります。

藤井委員が入られたようです。

藤井委員、聞こえますでしょうか。

○藤井委員 聞こえます。すみません、入れなくて遅くなりました。

○森下課長 本日はよろしくお願いいたします。

○藤井委員 よろしくお願ひいたします。

○森下課長 それでは、これより議事に入ります。

本日は岩本会長がご欠席ですので、資料1、東京都自立支援協議会設置要綱第3、5の規定により、副会長である森山副会長に会長の職務代理として議事の進行をお願いいたします。

以降の進行は、森山副会長をお願いしたいと思います。

森山副会長、よろしくお願ひいたします。

○森山副会長 はい、それでは、議事を進めさせていただきます。

本日の会議は、15時30分終了予定です。どうぞよろしくお願ひいたします。

次第をご覧ください。

議事の1つ目は、報告・情報提供事項です。第九期東京都障害者施策推進協議会第4回総会についてです。

令和4年2月4日に第九期東京都障害者施策推進協議会第4回総会が開催されましたので、事務局には、その時の資料を用意してもらいました。

事務局から説明をお願いいたします。

○森下課長 それでは、資料3-1をご覧ください。

こちらは令和4年2月4日に開催をされました第九期東京都障害者施策推進協議会第4回総会で配布された資料です。

現在は、令和3年度から令和5年度までを対象期間とする東京都障害者計画・第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画が策定されており、この計画に基づき活動をしているところですが、こちらの資料は1つ前の期である平成30年度から令和2年度を対象期間とした計画に掲げた成果目標及び活動指標等に関する実績報告です。

第4回総会では、資料3-1、3-2、3-3により、令和2年度分を中心に報告されました。

本日は抜粋しながら説明させていただきます。

資料3-1は、障害福祉サービス等の活動指標です。計画期間中の各年度末月、3月分のサービス提供の見込みと実績をまとめたものとなります。

1ページ目の一番下に、相談支援事業がございます。こちらは月ごとの変動が大きいため、月平均の利用者数が示されています。計画相談支援と地域定着支援については年々増加しており、令和2年度の計画相談支援の利用者数は1万4,500人と見込みを大きく上回りましたが、地域移行支援は1,077人、地域定着支援は3,155人と見込みを下回る結果となっています。

次のページをご覧ください。上段の表は、障害児に対するサービスの見込み及び実績です。

下段の表は、発達障害児(者)に対する支援の活動指標で、第1期障害児福祉計画から設定されたものです。実績等は後程ご確認ください。

次に、資料3-2をご覧ください。地域生活基盤の整備状況です。

計画期間においては、障害者・障害児地域生活支援3か年プランにより、地域生活基盤の整備促進を進めたところでは、

地域居住の場(グループホーム等)につきましては、3か年で2,000人の定員増を目標とし、1万1,077人分の定員見込みに対して、実績は令和2年度末で1万1,876人と目標を上回りました。

日中活動の場につきましては、3か年で6,000人の定員増を目標とし、5万4,732人分の定員見込みに対して、実績は5万3,094人と目標に近い実績となりました。

短期入所につきましては、3か年で1,800人の定員増を目標とし、1,230人の定員見込みに対して、実績は1,254人で、目標を上回りました。

次のページをご覧ください。障害児支援体制の整備についてです。

児童発達支援センター、保育所等訪問支援、主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所や放課後等デイサービス事業所については、令和2年度末までに、各区市町村に1か所以上設置や

全ての区市町村において利用できる体制の構築を目標としていましたが、実績は記載のとおりとなっております。

下段の医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場については、平成30年度末までに、各区市町村において設置することを目標に掲げていましたが、令和2年度末においても30区市町村にとどまっております。

次に、資料3-3をご覧ください。第5期障害福祉計画で掲げる成果目標等に係る実績です。

まず、福祉施設入所者の地域生活への移行等に係る実績です。

上段の地域生活移行者数については、平成28年度末時点の入所者数の9%、670人を地域生活へ移行する目標としておりましたが、令和2年度末実績は272人とどまっています。

次のページをご覧ください。精神科病院からの地域生活への移行に係る実績です。

こちらの実績の出典は、平成27年度までは6月末を基準とする全国の精神科病院対象の調査、いわゆる630調査を活用してデータを把握してきました。平成28年度からは、前の年の3月分の患者のレセプトを基にしたナショナルデータベースにより国が作成、公表した数値を用いています。この時期の実績に乖離があるのは、そのためです。現時点では、平成29年度まで国が公表しており、その数値が示されております。

次のページは、入院期間1年以上の長期在院者数について記載しています。

第5期目標は65歳以上が7,214人、65歳未満が4,158人でしたが、平成29年度以降の実績を国が公表していません。そこで、参考として中段のグラフで国の630調査の結果が示されています。65歳以上、65歳未満、共に減少傾向にあります。

下段の精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築については、令和2年度までに全区市町村で協議の場を設けることを目標としていましたが、実績は36区市町村にとどまっております。

次のページをご覧ください。地域生活支援拠点の整備状況です。

計画では、国の基本指針に基づき、令和2年度までに各区市町村に少なくとも1つ以上整備することとしておりましたが、令和2年度末の区市町村内訳は、整備済が21、令和3年度中に整備予定が10、検討中が21、整備予定なしが10となっております。なお、整備予定なしの10自治体には、未定と回答をいただいた自治体も含まれているとのことです。

次のページをご覧ください。一般就労への移行に係る実績です。こちらは、後程ご確認ください。

次のページをご覧ください。労働施策との連携による福祉施設から一般就労への移行です。

下から2つ目、福祉施設利用者のうち、公共職業安定所の支援を受け就職する者の数のように、令和2年度の実績が2,907人と目標の2,700人を上回った項目がある一方、令和2年度の実績が目標を大きく下回った項目が散見されます。

資料の説明は以上となります。

本日は時間の都合上、説明を省略をさせていただいた箇所が多くございます。当日の議事録は、後日、東京都福祉保健局のホームページに掲載される予定ですので、そちらもご確認いただければと思います。

説明は以上です。

○森山副会長 はい、ありがとうございました。

この第4回総会には、私も委員として出席しております。

今、事務局から資料の説明がありましたが、総会では各委員から、この資料に記載されたデータ、数値が何を意味しているのかを明確にすることが必要との意見が多数ありました。

例えば、資料3-3の1つめくっていただいて、精神科病院からの地域生活への移行に係る実績というところですが、4番の長期在院患者数というところにも、かなりの社会的入院をされている人も多いと存じます。「こういう人たちが、どのような数なのか、数値だけではなかなかわからない」というような意見が多数ありました。

また、裏面の地域生活支援拠点の数字ですが、数字だけ設置されたとかいう数字はございますが、

「これらが地域でどういった役割をしているのかということが、実態がなかなかつかめないので、実態が見えるデータの提示が必要」との意見が複数あがっておりました。これについては、先程もご案内があったとおり、ホームページで資料とか議事録がアップされますので、そちらをご確認ください。

以上、情報提供でした。

それでは、続きまして、協議事項に移らせていただきたいと思います。

協議事項の1つ目は、「令和3年度版東京都内の自立支援協議会の動向」調査票（案）についてです。

事務局から資料の説明をお願いいたします。

○森下課長 それでは、初めに資料4-1をご覧ください。「令和3年度版東京都内の自立支援協議会の動向」調査についてです。

2、方針は、従来どおりの5点です。

(1) 経年変化を追う質問項目は変更しない。(2) 地域協議会の様子がわかるように、具体的な取組を記述してもらう。(3) 回答者の負担が増えないように、質問項目は厳選する。(4) 区市町村の取組が比較できるように冊子の構成を工夫する。(5) ホームページへの掲載内容は冊子と同内容のものとし、個票も閲覧できるようにする。

3、内容は、資料4-2に実際の調査票（案）をお示ししていますので、併せてご説明したいと思います。

内容(1) 地域協議会の設置状況と(2) 相談支援体制の整備状況は、調査票（案）の1ページ。

内容(3) 地域生活支援拠点等の整備状況と(4) 日中サービス支援型共同生活援助の有無は、調査票（案）の2ページ。

内容(5) 地域協議会の活動状況等のうち、ア、全体会及び専門部会の活動回数、活動内容、委員構成等は、調査票（案）の3ページと4ページ。

イからオの間1から問4は、調査票（案）の5ページ以降となっております。

なお、調査票（案）の作成に当たりましては、動向集グループの委員の皆様からメーリングリストにてご意見をいただき、2か所程、調査項目の追加、表現の修正をいたしました。

具体的には、資料4-1、3、内容のうち、下線を引いてある2か所です。

1か所目は、(問1) 地域協議会の協議事項です。資料4-2の調査票（案）では5ページです。委員からは、「地域協議会の協議事項や活動内容を具体的に、どのように取り組んだのかがわかるように記載してほしい」とのご意見をいただきました。そこで、設問及び記入欄に文言を追加いたしました。

2か所目は、(問4) 当事者委員の所属、背景、経歴等の追加です。資料4-2の調査票（案）では8ページです。地域協議会に障害当事者が参画している場合に、その障害当事者が、どのようなバックグラウンドのある方か、背景等を尋ねる設問です。委員からは、「地域協議会にピアサポート活動従事者が参加しているかを明らかにしてほしい」とのご意見をいただきました。ピアサポート活動従事者は、ユーザー目線と支援者目線の双方を併せ持ち、ユーザーとしての障害当事者とは若干異なるため、地域協議会に参画しているかの設問があっても良いのではないかとのご意見でした。各地域協議会には、障害当事者として、多様な当事者が参画されています。そこで、問4-1として、その障害当事者がどのようなバックグラウンドがある方か、背景等を尋ねる設問として追加し、例示として、「ピアスタッフとして従事している」、「ピアサポート活動をしている」といった記載をいたしました。また、当事者委員個人についての記載にならないように、このような設問、記入欄といたしました。

資料4-1をご覧ください。4、対象、5、基準日については、記載のとおりです。

6、結果の公表につきましては、冊子は例年どおり発行する予定です。冊子の最初に、概要や一覧を掲載していますが、各区市町村の状況が一覧でわかるようにします。また、区市町村の具体的

な内容を知りたい時は、一覧から個票を見ただけのように個票の掲載ページを記載します。

このほか、東京都心身障害者福祉センターホームページには、これまでどおり、冊子と同様のものを掲載するとともに、各地域協議会のホームページリンクの一覧も引き続き掲載いたします。

発行は令和4年5月を予定しており、来年度の第1回本会議で報告させていただきたいと思いません。

以上でございます。

○森山副会長 ありがとうございます。

事務局から「令和3年度版東京都内の自立支援協議会の動向」調査票（案）について、説明いただきました。

動向集グループのリーダーの石川副会長からご意見などがありましたらお願いいたします。

○石川副会長 事務局からのご説明、ありがとうございます。

今回、セミナー等のテーマにつきましても、「本人中心の暮らしはこうして実現する！」といったような当事者の気持ちを反映するという部分がありましたので、動向集につきましてもピアサポート、ピアカウンセラー、そういったところのテーマの内容を詳しく聞こうということで、こういう形になったというふうに感じているところです。

どうもありがとうございました。

○森山副会長 石川副会長、ありがとうございます。

委員の皆様からも、ご意見などありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。挙手かマークをお出してください。

大丈夫そうですね。

○佐々木委員 佐々木です、いいですか。

○森山副会長 はい。

○佐々木委員 すみません、ちょっと基本的なところでわかっていないところがあるかもしれないんですけども、教えていただきたくてですね。

今、最後にご紹介いただきました調査票の間4-1のところなんですけれども、もともと地域の協議会に参加する当事者の方というのは何か背景を持ち合わせていないといけないという何か条件みたいなものがあるわけでしたっけ。

というのが、基本的にはどういう背景の方か経歴のある方かというのを把握するのはとても大事なことと思いつつも、何かこういう書き方が進んでいくと、所属がない方とか、何かこれまでの実績がある当事者の人の参画みたいにどんどんなっていくかなというのが少し気になったというか、そこの地域住民としての当事者の参加枠をある程度担保するというのは、私は大事なかなと思っていて、何かちょっとそこだけ気になったという、だからこうしてほしいというわけじゃないんですけども、ちょっとそこだけ意見してみます。

すみません、以上です。

○森下課長 佐々木委員、ありがとうございます。

今回のこの設問の意図は、何か背景がないと委員として参画できないということではなくて、まだまだなかなか地域の自立支援協議会に当事者の方が参画していないというような実態もあって、今回、動向集を発行するに当たって、こういった方々が参加されていますよということを東京都の自立支援協議会として発信することで、各地域の自立支援協議会で当事者の方の参画が進めば、という意図で設定をしているものです。どういう方々が参加されているかということ個人を特定しない形で記載をしていただこうというところがねらいになっております。

○佐々木委員 ありがとうございます。

○森山副会長 佐々木委員、よろしいですか。

○佐々木委員 はい、大丈夫です。

○森山副会長 そのほかにも、ご意見のある方は、どうぞ挙手してください。

○藤井委員 ごめんなさい。すみません、いいですか。

○森山副会長 藤井委員、どうぞ。

○藤井委員 今の佐々木委員からのお話を受けてですけれども、この調査票の背景、経歴等のあるかを記入してくださいのところに、特に、例えば、背景がなくても参加できるんだよということを、何か、どこか書けないですよ、書くわけにいかないんですかね。

多分、こういう調査の中身って聞くと、ほかの区市町村の方も参考にされると思うので、東京都として別に背景がない人が、いろんな地域の協議会に参加できないということにはしていないと思いますので、何かそういう一言が。もし、今でそういうことが懸念されるということであれば、一言、文言を補足で入れても良いんじゃないかとは思いました。

以上です。

地域によっては、もしかしたら、要件を設けちゃっているのかもしれませんが、その辺がちょっと僕も実態がよくわからないので、何とも言えないんですが。

○森下課長 ありがとうございます。先程もちょっとご説明をしましたがけれども、何かこう、特定のこういう方でないと参加できませんよというメッセージにならないように、例えば、公募等で参加という例示もあげているんですけれども、これだと不十分だということになりますでしょうか。

○藤井委員 いや、何か、そういうふうに誤解を生まないのであれば、別に大丈夫だとは思いますが。

○森山副会長 修正なしでよろしいですね。

石川副会長、どうぞ。

石川副会長、ミュートになっているんじゃないかと思います。外してご発言ください。

○森下課長 石川副会長、音声が入っていないようです。

石川副会長、マイクのミュートマークが出ていますので、多分、今、ミュートになっていると思います。

○森山副会長 音声はこちらに届いていませんので、石川副会長、チャットでご発言をお願いします。それでは、石川副会長、チャットをお願いします。

今、挙手がありましたので、西田委員、どうぞ、ご発言ください。

西田委員もミュートになっておりますので、外してご発言ください。お願いします。

○西田委員 失礼しました。

どこに入るかということなのですが、今、例えば、障害を持っている方の高齢化ですとか、あとは医療的ケア児の方の地域移行とか、あとは成人の知的障害者の方の健診の問題、メタボの問題とか医療的な問題、課題ってすごくたくさんあって、それがなかなか、何というんですかね、医療と福祉の連携じゃないですけれども、そういったことがなかなか論じてこられていないという側面があると思うんですね。そういうことの項目立ては必要ないのかということをやちょっと伺いたいです。

お願いします。

○森下課長 西田委員、ありがとうございます。

先程のご発言ですけれども、調査票（案）の5ページの間1のところの地域協議会の活動状況で項目を選んでもらうようになっているんですけれども、ここに医療関係がありませんので、その点、1項目、医療と福祉との連携という項目を設けたいという趣旨でよろしいでしょうか。

○西田委員 はい、是非お願いしたいと思っています。いかがでしょうか。

○森山副会長 西田委員、いかがですか。

○西田委員 はいはい、是非お願いしたいと思っています。間1のところ盛り込んでいただくのが良いと思います。

聞こえていますか。

○森下課長 大丈夫です。



○森山副会長 ありがとうございます。

また、石川委員からチャットで、「個人情報特定できない範囲で、といった注釈がつけば、意図が伝わるのではないかと思います」というご意見をいただきました。

これもどうですか。

それでは、今、出された意見、石川委員とか、チャットをご覧になられると思いますが、これについてのご発言でございますでしょうか。

特にご意見がなければ、調査票（案）を、また、こちらのほうで修正し、事務局に調査を実施していただくということでもよろしいでしょうか。

事務局は、3月中に調査を実施し、来年度第1回本会議で報告していただければと思っております。

よろしいでしょうか。

（はい）

○森山副会長 この件に関しては以上です。

続きまして、協議事項の2つ目と3つ目に入らせていただきます。

協議事項の2つ目は、令和3年度自立支援協議会交流会及び東京都自立支援協議会セミナーの振り返りです。

3つ目は、令和3年度の協議会活動のまとめ及び次年度に向けた課題についてです。今年度は第7期の1年目で、「当事者の視点に立って地域課題を検討する」を活動方針として活動してまいりました。そこで、本日は、今年度の活動の振り返りと次年度に向けた課題について、皆さんに協議していただきたいと思っております。

今年度の活動について、事務局に資料を用意していただきましたので、説明をお願いします。

○森下課長 それでは、初めに資料5をご覧ください。令和3年度東京都自立支援協議会活動のまとめです。

上段に第1回及び第2回本会議の議事を、下段に交流会、セミナー、動向集の発行といった協議会活動を記載しております。

第7期、令和3年度・4年度のテーマは、「都と地域の協議会活動における情報共有を促進し、当事者とともに地域課題への取組を考える」です。

また、今年度の活動方針は、「当事者の視点に立って地域課題を検討する」です。

第1回本会議では、会場とオンラインのハイブリッドで、地域自立支援協議会交流会は完全オンラインで、東京都自立支援協議会セミナーは会場定員を少なくして開催するとともに、動画配信を行うといったように、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を踏まえながら開催方法を検討し、取り組んでまいりました。

動向集の取組は、先程協議していただきましたので、省略させていただきます。

交流会、セミナーの取組は、別資料に詳細をまとめております。

資料6をご覧ください。交流会は、昨年9月27日（月曜日）オンラインで開催しました。対象者、周知方法は、記載のとおりです。参加者は14区14市から61名に参加していただき、東京都自立支援協議会委員や事務局を合わせ、95名が参加しました。

プログラムは右側に記載のとおりです。テーマは「誰しものが望む地域で希望する暮らし方を実現するためには ～そのために地域協議会はどんなことができるのか～」でした。ミニシンポジウムでは、秋元副会長と小阪委員にシンポジストとしてお話いただき、岩本会長に進行をしていただきました。その様子を事前に撮影し、参加者にはオンラインで視聴していただきました。

1枚おめくりください。左側のプログラム構成のねらいは、交流会グループによる検討での、委員の皆さんのご発言を抜粋いたしました。

右側は、参加者アンケートの結果を掲載しています。

続いて、資料7をご覧ください。セミナーは、昨年12月13日（月曜日）東京都庁第一本庁舎

5階大会議場で開催しました。

昨年度に引き続き、会場でのセミナーの様子を撮影し、字幕をつける等の編集を行い、12月22日から28日までの1週間、動画配信を行いました。対象者、広報は記載のとおりです。参加者は会場参加者のみですが、全体で152名でした。

プログラムは右側に記載のとおりです。テーマは「本人中心の暮らしはこうして実現する！」でした。第1部は新藤健太さんに「全国の地域移行・地域生活の効果的な支援モデル ～本人の望む暮らし・家族、支援者、地域は変わる～」と題して、基調講演をしていただき、第2部は、上田久美子さん、二宮史子さん、柳沢陽子さん、古橋陽介さんにパネリストとして登壇していただき、岩本会長はコーディネーターを、新藤健太さんがコメンテーターを務め、パネルディスカッションをしていただきました。

1枚おめぐりください。左側には、プログラム構成のねらいを、右側には参加者アンケートの結果を記載しています。今年度の活動の振り返りの参考にいただければと思います。

以上になります。

○森山副会長 事務局から今年度の活動について報告していただきました。

それでは、交流会グループのリーダーの秋元副会長から交流会を通じた活動について、ご意見などお願いいたします。

○秋元副会長 皆様こんにちは、ご企画ありがとうございました。

内容をご報告があったとおりで、今年度は、急遽、全部オンラインということで、急遽、変わったということで、私も正直どうなるのかなというところはあったんですけども、逆に、そこでいろいろとグループでわかれてディスカッションして、ほかのところの様子を聞いたのが良かったという意見があがっております。

私自身も参加させてもらって、やっぱり、地域ごとにいろんな課題とか、東京都で共通している課題もあれば、区市町村で独自の課題もそれぞれに持っているんだなというのを感じました。

本当に今回は時間がない中で、グループのメンバーの方には、一所懸命に取り組んでいただいて、このテーマでやらせていただいて、ちょっと人選とかも自分こは、小阪委員にお願いしてというように形でやったので、また、来年度、また今年度からの続きというか、今年度のをまた活かして来年度へ繋げていけたら良いなというふうに思うのと、また、交流会、セミナーとも繋がっていたと思うので、その辺もちょっと頭に入れながら、また来年度、やり方であったり、テーマであったりというのを考えていけたら良いなというふうに思っております。

以上です。

○森山副会長 はい、ありがとうございます。

セミナーグループは、私がリーダーを務めさせていただきましたので、セミナーを通じた活動について、ご報告させていただきたいと思います。

セミナーグループの中で、地域移行をしたけれども、その時その時で、こういうことが良いんじゃないか、ああいうことが良いんじゃないか、でも、本人の意思はどういうことだったのだろうか、そういったご意見があったので、それでは利用者本人のこのテーマの奥には、意思決定支援というものをちょっと据えてございました。ご本人を対象とした具体的な働きかけ、また、家族を対象にした具体的な働きかけ、地域社会への働きかけ、職員への働きかけを全国様々な法人に調査して、新藤先生が調査をされていたので、それを基に、多少、スケールであったり、難しい文言もあって難しかったというご意見もありましたけれども、でも、全国の法人がこういった工夫をして進めているんだということが、参考になればと思って、このテーマにさせていただきました。

おおむね、感想として、「ご本人が経験しないこと、または家族がそれを見ないと選択肢として選べないというのは、そのとおりだと思った」とか、「エビデンスに沿った支援の有効性を感じた」、「地域移行が当たり前であるという意識が身についた」、「具体性が高かった」など、また「これを評価ということで数値化して、職員が励まされるといった」などのご意見もありました。

そして、また、パネラーによるディスカッションでは、「すごく当事者の声が聞けて良かった、自分たちも励まされた」とか、「当事者の話、想いを聞くことの大切さを実感した」などの感想が多くありました。それから、岩本先生が、コーディネートされる中で、「長期入院患者などの数字には、一人ひとりの顔があるというお話があった」というようなことを感想に書いていらっしゃる人もいました。先程の、施策推進協議会の地域移行での数字というものの中にも、一人ひとりの顔があるんだということを強く認識させられたような思いもいたしました。

次年度に向かっては、様々な、こういうことに苦労したとか、いろいろトライしたけれどもこうだったとかというようなお話も含めて、また、こういう地域移行の課題であるとか、そういったことも掘り下げていければなと思いました。

そしてまた、取り上げてもらいたいテーマとして、相談支援の質と量、社会資源の活用、権利擁護、虐待防止とか様々なあがっております。その中で、西田先生もおっしゃったような、医療的ケアの課題というのものがあがっております。

はい、以上です。また、これを足がかりにして、また、次年度のセミナーに繋げていければなと思います。

今年度は、「当事者の視点に立って地域課題を検討する」を活動方針として交流会もセミナーも活動し、活動を通じて感じたことや、皆様からご意見などをお聞きしたいと思います。

どうぞ、ご発言をお願いいたします。

感想でも、または次年度に向けて、こういうことがあったら良いなとかいうようなご意見も頂戴したいと思います。どうぞご発言をお願いします。

中村委員、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○中村委員 すみません、東京都手をつなぐ育成会ゆうあい会の中村です。いつもお世話になっております。

昨年のセミナーの、ちょっと当日、会場に行くことができず、ちょっと期限ぎりぎりになっちゃったんですけども、動画で視聴させていただきました。

その中で、ご本人からのいろいろ声も聞けて、上田さん、あと並びに柳沢さんのいろいろな発言とかも聞くことができまして、大変良かったと思います。柳沢さんも結構、生き生きとして話をしていたので、結構、頑張っているんだと思いました。

あともう1つ、今回の自立支援協議会のテーマとして、「誰しものが望む地域で希望する暮らし方を実現するためには」というテーマだったんですけども、その中で、ちょっと私も感じたんですけども、グループホームについてなんですけれども、2つ課題というか問題がありまして、まず1つ目は入居する前の準備で感じる課題で、利用するに当たり、そもそも、何というんですか、自分が選べるほどのグループホームがあるのか、グループホームの数があっても、常に定員がもういっぱい状態で入れないということにならないか。あとは、利用したいグループホームがあっても、自分自身が、本人さんの収入がなかったりとか少なかった場合、その利用料を支払えるのかどうか、あるいは、入れたとしても、何というんでしょう、利用料の負担が重過ぎて、自分の住むところは確保できたとしても、衣食住の中の住むほうは確保できたとしても、食費とか、そのほかの生活に必要な物とかが買えるかどうかとか、というところに、ちょっと不安を感じるかなと思いましたね。

あと、これはもう当然のことなんですけれども、自分が住みたい場所は、他人が、第三者が決めるのではなくて、自分、ご本人さんが決めるのが当たり前のことであって、また、選ぶ権利も当然、ご本人さんにあると思うんですよね。

あともう1つ、問題にあげたいのは、グループホームに入った後、きちんとしたほかの作業所とか、あと、地活とか、運営している社会福祉法人とかであれば、ほぼほぼ問題はないかなとは思っていますけれども、その中でもいろいろ、ちらほら聞く話なんですけれども、全然、福祉の分野とは関係ない、何というんでしょう、異業種の企業から、グループホームの経営とか運営は、区市町村

から、そういう何というか、家賃補助が入ったりとか、あと利用料とか何か、取りっぱぐれがないからとかという、その安易な理由で、福祉のイロハもわからない状態で入ってきて運営しているところもあるらしいんですね。当然、その中で、何というんでしょう、当然、みんながみんなとは言わないんですけども、福祉の分野に詳しい人だったら、まあ、良いんですけども、全然、右も左もわからない人が世話人をやっていたりとか、あとは、何というのかな、サービス管理責任者というんですか、その人がいても、ほかの事業所からの名義貸しというんですかね、何か、それに近い状態だったりとか、あと、世話人とサービス管理責任者についても、まともな研修を受けさせないまま、現場でその運営に当たらせたりだとか、結構、いろいろ問題がちょっと多過ぎるんじゃないかなとか、やっぱり、実際に別のそういう、異業種から入ってきた、そのグループホームに入所している方から聞いた話によると、正直言って、そのグループホームというのは、やっぱり、当然、自分の家であるわけですから、住むところであって、そういう世話人さんがいるところって果たして安心して住めるのかどうかとか。あとはグループホームの中で解決できない問題、例えばですね、世話人に相談できないことがあった場合とかに直面した時に、サポートしてくれる人がそばにいてくれるような支援体制の充実があれば良いかなと思っています。

取りあえず以上です。すみません。

○森山副会長 ありがとうございます。本人の希望する暮らしを支える具体的な課題ということでしたね。すごく具体的なお話でありがとうございます。次年度に向けた課題としてご意見を頂戴させていただきたいと思います。

ほかにご意見ございますか。佐々木委員手があがったようですが、いかがですか。

○佐々木委員 ありがとうございます。すみません、お話を聞きながら何を話そうか忘れてしまって……、ちょっと思い出しました。

今回の第7期のテーマが令和3年度、4年度ということで、4年度って、次は5年度でしたっけ。次4年度でしたっけ。4、じゃあ継続で良いんですね。ありがとうございます。

ちょっと気になったのが、資料3-3のところ、地域生活の移行者の目標数と現状がやっぱりものすごくかけ離れている印象をみんなで確認したと思うんですけど、すごく気になっていて。なので、継続しても皆さんが良ければ、強化していくような形で持続できると、こういうテーマです、良いなと思ったのが1つと、すごい事務的な話になってしまうかなと思うんですけど、今回12月に実施をされた、この動画配信のところが個人的な課題でもあるんですけど、この2年間、オンラインの配信でいつまで見れますみたいなのが、私も含めてなんですけど、周りで結構聞くのは、どんどんそういうのがたまってしまって、見るのが追いつかないというのが私もよくあるんです。1週間というのが結構難しかったんじゃないかなと思って、年末年始だったらゆっくり見れた人というのが、もしかしたらいらっしゃったかと思うと、もう少し幅を持たせても良かったのかなという、ちょっと事務的なことなんですけど、思ったところでした。

以上です。

○森山副会長 ありがとうございます。ご意見として頂戴いたします。

そのほか、皆さんいかがですか。事務的なことでも、またテーマに関することでも何でも結構です。

それでは実際に、今年度グループで活動していただきました、セミナーとか交流会の委員の方、ご感想なり、ご希望などございますでしょうか。

山地委員お願いいたします。

○山地委員 はい、今年初めて参加して、交流会のところに参加させていただきました。

本当にお会いできないので、そこでのちょっと不便さと、オンラインでグループ討議をするというものの利便性みたいなもの、両方味わった感じがしてます。特にお会いできなかったところで難しかったのは、テーマの設定がやっぱり、もう少し広がるみたいなことが、実際にはできず、それぞれのどんな方だろうかみたいな、そういうところが私にはなかなか難しかったというふうに

思っています。

ですけど、当日は非常に細かな進行の表があって、本当に初めて東京都内のいろんな方とお会いしましたが、そこは何か平等に皆様が「初めまして」というところから始めて、いろんな地域のお話が聞けたのは、私はとても良かったと思いますし、オンラインはもっと慣れてくれば、もっと深まるような話とか、それぞれの経験が積み重なるところでできていくんじゃないかなと、私は感想として思っています。いろいろ経験させてくれてありがとうございました。

それで、先程のグループホームの話なんですけど、精神障害の方へのサービスのビジネス化というのがすごく進んでいて、格段にそこは昔と今の違いだと思います。グループホームはもう空きがあるくらい、じゃんじゃんできていて、そこがそもそもの福祉的な考えとそこをビジネスにしている方の考え、立ち位置が本当に明らかに違うんじゃないかと思って、就労支援に私はいますけど、そこもそうなっていますので、状況を把握していくというのにも必要なんじゃないかとは思っています。

以上です。

- 森山副会長 ありがとうございます。本当にそうですね。中村さんもうなずいていらっしゃいました。やはり、就労と生活、地域生活ってすごく結びついていますから、両方の支援が大事ということですね。これらもテーマになるかと思います。

ほかに。ではセミナーから、名指しで申し訳ございませんが九鬼委員、感想とかございますでしょうか。

- 九鬼委員 今回も昨年度に引き続いて、セミナーのほう担当させていただきました。今年度は、その前のやつとの連動があったので、何かイメージとしてはすごく伝わりやすかったのかなというふうに思いました。

それで、先日送っていただいたアンケートをちょっと拝見をいたしますと、結構事業者というか支援者サイドの問題というのが非常に多くて、それを協議会セミナーで取り扱ってほしいというような意見が多くあるように見ましたので、ちょっと今までこの私も3回程経験しているのですが、この中では、当事者が必ずパネルディスカッションなりというところに来ていただいてお話をいただくということを主体的に行っていましたけれども、やっぱり当事者の視点に立って地域課題を検討するというこの大きなテーマというのは、支援者側としても、先程のグループホームのお話にもありましたけど、ちょっと検討しないといけないのかなというふうに思いましたので、この辺も踏まえたセミナーというのが、今後できると良いなと思います。

以上です。

- 森山副会長 ありがとうございます。とっさにご指名してすみません。また来年度の参考にさせていただければと思います。

そのほか、どうですか。皆様ご意見ございますでしょうか。

それでは、ご発言のない方順番にという意見もございます。どうぞ、手をあげて順次ご発言してください。私のほうから指名いたしますか。

九鬼委員、どうぞお願いいたします。

- 九鬼委員 度々すみません。ちょっと私も先程西田先生がおっしゃっていた医療的ケアの子供に関する事業というのを今行ってるんですが、やっぱり人数が本当に少なく、課題としてもなかなかあがってきづらいというか、本当に一人ひとりに丁寧に寄り添わないと、そのうちの課題とか、それからうちの中にごきょうだいの課題というのものなかなか見えてこないところがありまして、やっぱり協議会という大きな場所にあがってくる割合というのも非常に少ない印象を持っています。

ですので、東京都という全体を見ると結構な数はいるんだけど、当市の場合は、人口8万人に対して今のところ私が把握をしているのが11名ということで、本当に1%なんて到底満たないような状況があって、そこの中にはごきょうだいがいらっしゃる方もいれば程度の重たい方、軽い方、

あまり医療の中には重い軽いもないんですけど、やっぱりお父さんお母さんが寝れないという状況の方もいれば3時間4時間は寝れるよというようなお母さんたちもいらっしゃるの、そういうのが、やっぱり当事者の視点に立ってもう少し見えていくと良いなというふうにも思いましたので、意見として医療的ケア児というのをも忘れないで、東京都の大きな問題として取り組むことができればということで、意見をさせていただきます。

よろしく願いいたします。

○森山副会長 ありがとうございます。佐藤委員お手があがっております、よろしく願います。

○佐藤委員 聞こえますでしょうか。すみません。東京都の地域生活支援課長の佐藤でございます。

日頃より都の障害者・障害児施策にご協力いただきまして、本当にありがとうございます。

私からも僭越ながら少し感想ということで、お話をさせていただきます。

特に印象に残ったのはやはり12月の都庁で行われましたセミナーです。当事者の方が、本当に一生懸命お話をされている姿を見て、改めて当事者の視点に、立場にきちんと立って考えることの大事さを感じたところでございます。

我々行政としてもどうしても法令等に基づく業務になるんですけど、利用者の方の思いからついつい遠くなってしまうことがありがちなんですけども、改めて当事者の思い、それから地域移行をどうやってやっていくのか、意思決定支援を含めてですね。どのような形で地域で暮らしていくのか。今、狛江市の話もありましたけれど、少ない、顔が見える自治体もあれば、もしかしてなかなか多くの方を抱えている自治体もあると思いますので、東京都広域自治体として、できる限り支援をしていきたいと感じたところでございます。

また、改めて、引き続きいろいろな業務でお世話になるかと思いますが、よろしく願いいたします。

私としては感想以上でございます。ありがとうございます。

○森山副会長 ありがとうございます。

それでは続いて、小阪委員お願いいたします。

○小阪委員 ありがとうございます。小阪です。

私からは2点程、特に感想というわけでもないのですが、全体的なことについて、せっかくなので申し上げたいと思います。

まず1点目が、東京都の東京都自立支援協議会の設置要綱に基づいて、東京都全体の、例えば地域生活の移行の推進に係ることだとかについてですけれども、区市町村で良い取組というのは、この間結構たくさん出てきていると思うんですよね。その1つが、地域の自立支援協議会やあるいは区などが主体となって、長期入院されている方に関するニーズ調査等、例えば世田谷区とか荒川区とかが先駆的に取り組んでいた取組を今、多くの区が実際に取り組まれている状況があるのですね。

こういった調査というのは書面だけの調査じゃなくて、実際に長期入院されている方の元に行きに行くということもセットでやられているところも結構あって、これはとても良い取組で、実際に退院に繋がっていく取組になるので、こういった具体的な良い取組というのは、もうちょっと東京都自立支援協議会としても、普及啓発じゃないですけども、例えば、来年度の本会議に実際に来ていただいて、委員の皆様にも共有を図っていただくというような取組がなされても良いんじゃないかなということを1つ思いました。

それから、2点目が、本日送っていただいた参考資料5、地域における相談支援体制の整備推進についての検討（イメージ）ということですけども、今般皆様もご承知のとおり、都の自立支援協議会のテーマにも据えていますけれども、相談支援体制等も含めた障害福祉施策については、やっぱり当事者と共に考えるということが、とても大事だと思うんですよね。そういうところを鑑みた時にいただいた地域における相談支援体制の整備推進についての検討について、アドバイザーによる助言のイメージ、4項目に渡って示していただいておりますけれども、ここは是非、障害者ピアサポーターの活用というものも、特出しで入れていただいて相談支援のアドバイザーについては当事者の

視点、あるいは当事者と共に一緒に、その在り方を考えるという枠組みが都の自立支援協議会としても、少し後押しして下さっても良いんじゃないかというふうに思いました。

以上になります。

○森山副会長 ありがとうございます。貴重なご意見でした。

続きまして、柳瀬委員いかがですか。

○柳瀬委員 柳瀬と言います。よろしくお願いします。

今年から参加していて、すみません。まだ全体的にやっとなし少しどういう状況かがわかってきたくらいのところでも申し訳ないのですけれども。

交流会のほうとかは、なかなか貴重な機会だったんですけども、ちょっと僕も司会進行とかわかっていなくて、時間的にもちょっとうまく配分できなくて、うまくやれなかったところもあって、ちょっと反省しているところもあって、また次の機会があったら、うまくやりたいなと思っています。

あとセミナーのほうは、やっぱり当事者の皆さんのしっかりお話し聞けたりして、良い機会だったのかなと思っています。僕の立場としては、もともと旧の身体障害者の入所施設の立場で出ているところもあって、地域の中でなかなか今、東京全体もそうだと思うんですけど、いろんな重複した障害とかの、先程の医ケアのこともありますけど、施設か地域で、先程のグループホームの話なんかも出ているけど、重度になってグループホームでどこまでいけるのとか、そういう課題、すごく大きくなっていて、ただ入所施設は国も造らないといったような、東京都も増やせられない状態がちょっと1つあるのかなと思いますけど、でも、一方、逆にニーズはすごく高くなっていて、なかなか入りたくても、入りたいわけじゃないのだけど、入る必要があるのだけど入れないみたいな状況もある中で、そういうところを全体的にどうレイアウトしていくのかみたいところはすごくグループホームをもっと重い人が入れる状態にしていくのかとか、そういう課題すごく東京全体としては多分区市町村だけだと、やっぱり僕はどっちかという、多摩の西のほうで、もともとの施設はしているので、そうすると単位が小さいので、先程医療的ケア児の方とかも、やっぱり区市町村だと何人か、一桁の数しか利用者がいなくて、そうするとどうしていいのかと、区市町村単位の自立支援協議会ではなかなか解決できない問題も多いと思うので、まあその辺、東京都としての自立支援協議会の役割としては大事なのかなとは思って、お話を聞かせてもらっていました。

またよろしくお願いします。

○森山副会長 ありがとうございます。

それでは調査票についてご意見いただきましたが、この場ではまだですので、西田委員ご意見お願いいたします。

○西田委員 すみません、西田ですか、私。

○森山副会長 はい、そうです。

○西田委員 来年度の展望ということでよろしいですか。ちょっと私セミナー等参加したかったんですけど全然コロナで全くほかのことで出られなかったんですけど。

○森山副会長 大変お忙しかったですね。何か次年度に向けてのご意見等あったらお聞かせ願いたいのですが。

○西田委員 ありがとうございます。

今も何人かの方が言っておられた医ケア児問題というの非常に大きな問題だと思うんですね。在宅医療の部分で、結構東京都も小児の在宅医療に力を入れているので、そこで論じられることは結構あるんですけども、なかなか医療が中心になった話になったりもしていて、先程も私、質問のところでも聞かせていただきましたけれども、医療と福祉の連携みたいな話、まあ本来的に一体としてあるべきことなのだけでも、何かこう、場面場面で隔たりを感じることも私あってですね。先程も申し上げましたが、例えば成人の知的障害を持っている方たちの日頃の健康管理なんかもまだまだ立ち後れているところたくさんあると思うのです。

そもその医療機関というのが、なんていうんですかね。知的障害を持っていない方を診ますというのが前提としてあるので、ここのハードルってすごく大きいと思うのですよね。何かこういうところに何か焦点を当てたことが議論できれば良いなと思います。

よろしく願いいたします。以上でございます。

- 森山副会長 知的の人で、本当に気づかないうちに糖尿病になっていたり、何か具合が悪いことを自分で発言できない、状態を説明できないということで、気がついた時には結構難しい病気になっているというような問題も多数あるかと思います。

ありがとうございました。

それでは藤井委員、いかがでしょうか。

- 藤井委員 今年度の話でいうと、交流会とセミナーの話ですけれども、交流会は、そうですね、小さいグループで話のできたので良かったなというのが、全体的な感想で、個人的には秋元委員の背景というか、どんなふうに暮らしてこられたかとか、そんなところが知られたのですごく個人的には、嬉しいなと思っていました。

その交流会とその後のセミナーが、すごく僕の中ではリンクしていて、そのセミナーは特に第2部のほうでお話いただいた柳沢さんの話とかが、やっぱりすとんと入ってくるのですよね。

だから、地域の中で暮らすということが、きちんと、たしか交流会の中のミニシンポジウムだったと思うのですけれども、暮らすって結構そんな簡単じゃないよみたいな話がたしかあったと思います。それで、そういうところを経て、今現在暮らしているということと、それからきちんと古橋さんとかに支えられているということがすごくよくわかってですね、交流会とセミナーの繋がりがきちんとあって良かったなというふうに個人的に思っているところです。

なので、地域で暮らすということのテーマはすごく深いのですけれども、事例がこうやってきちんと見えていると、わかりやすいのだろうなというふうに感じました。なので、このテーマはこのテーマですごく大事なので、今後もやっていってほしいと思っているところでございます。

ただ、先程もちょっとお話が出ていましたけれども、私は、地域の中にも、やはり精神の方を対象としたグループホームかなり増えてきて、精神の方のグループホームって知的障害の方も対象とされているので、比較的最近知的の方々の方々の軽度の方は、そこを狙って地域に移行していく方がちょっといるのですけれども、そうなった時に支援力というか、きちんとした支援ができていくかという、やはりそこは支援ができていない部分があって、ただ一人で部屋の中で過ごしていれば良いという話ではないと思うので、こういうところの部分については少し課題かなと思っているところです。

あと、来年度の課題という、来年度機会があれば取り上げていただけるとありがたいと思っているのは、やはり地域の中での人材育成みたいなものが、きちんと、相談支援の部分から話が出てきているのですけれども、今、この後も報告があると思いますが、相談支援の研修の中では、主任の研修を終えた人たちが、地域の中で比較的核となって、これからの相談支援専門員を育てていくとか、あるいは、地域の中の人材を育てていくとかということに、力を注いでいくことになると思うのですけれども、なかなか地域の中での人材育成って難しく、きちんと体系立てて作られている地域ってあんまりないんじゃないかなというふうに感じているところもあって、そういう自立支援協議会を活用しながらそういう人材育成していくのが良いのか、あるいは、先程も動向集の中で出てましたけれども、地域生活支援拠点とかの中にも人材育成という項目入っているの、そういうものを活用しながら、地域の中できちんと人を育てるということをやっていくことが、今後都内全域に必要なかなと思ったところなのです。なので、そういうこともちょっと最近の中で気になっているところかなと思います。

すみません、今年度の振り返りと自分の中で感じている課題でした。以上です。

- 森山副会長 ありがとうございました。本当に地域とか、東京都の自立支援協議会のしていくこととか、役割って大きいなと改めて思いました。



様々なご意見をいただきましてありがとうございました。来年度に向けて協議を進めていかれることと、次の委員がされると思います。

それでは、皆さんに一応、意見を出していただいたと思いますが、聞き漏れていらっしゃる方はいらっしゃいませんか。大丈夫でしょうか。

(なし)

○森山副会長 大丈夫なようでございます。

それでは、事務局から、そのほか本日用意した資料の説明をお願いいたします。

○森下課長 それでは、参考資料の説明をいたします。

初めに参考資料1をご覧ください。東京都における令和3年3月までの計画相談実績です。区市町村別のものとなります。調査は年1回行われており、次回の調査は令和4年3月末となります。なお、令和3年3月までの都道府県別の計画相談実績は、まだ厚生労働省から情報提供されておられません。情報提供され次第、本会議にてご報告をいたします。

先程、藤井委員から話もありましたけれども、参考資料2から4は、相談支援従事者研修検討会、サービス管理責任者等研修検討会の活動報告です。今年度はそれぞれの検討会を年4回開催することとしており、3回まで終了していますので、現段階での活動報告となります。

検討会の資料や議事要旨は、東京都心身障害者福祉センターのホームページに掲載しておりますので、併せてご覧いただければと思います。今年度の最終的な活動報告は、来年度の第1回本会議で報告をさせていただきます。

なお、令和2年度版都内における障害者福祉施設従事者等による障害者虐待の状況及び都内における障害者虐待の状況は、まだ公表されておられません。こちら、公表され次第、本協議会にてご報告をいたします。

事務局からの参考資料につきましては以上になります。

参考資料5は、地域における相談支援体制の整備推進についての検討(イメージ)です。ぎりぎりになってデータ送付いたしました資料です。こちらにつきましては、東京都福祉保健局障害者施策推進部地域生活支援課長の佐藤委員から説明いたします。

佐藤委員、よろしくお願いいたします。

○佐藤委員 すみません。改めまして、地域生活支援課長の佐藤でございます。

最後に1点、私のほうから説明をさせていただきたく思います。資料の送付が遅くなりまして大変申し訳ございませんでした。

まさに、今日の間でも何度となく出てきました、相談支援の体制充実ということで、これは都においても地域においても、重要な課題であると改めて認識しているところです。

今、各区市町村に1つ以上の基幹相談支援センターなどの設置ということで、何かあった時の困り事を相談できる基幹となるセンターなど、相談支援体制をしっかりと作って、地域で暮らす障害者の方の生活の助けとなるべきだということ、それはまさにそのとおりに思っておりまして、都としてはまだこの検討はイメージではありますが、令和5年度にこのような予算要求をしていきたいと考えており、来年度以降改めてご意見をお聞きしたく、本日は事前のアナウンスとして資料を作成いたしました。

実際、地域によって課題は様々かと思いますが、相談する人材が不足しているとか、あと事業所間との連携体制があまり整っていないとか、いろいろな理由で基幹相談支援センターほか、相談支援体制が十分でないという区市町村もあるように聞いています。

都としては、相談支援に関するアドバイザーの配置などをできればということで、予算要求に向けて取り組んでいきたいと考えています。

これは、国の地域生活支援事業、国の補助が出るんですけれども、これにおいて都道府県相談支援体制整備事業というのがありまして、これにうまくはまれば、半額、国庫補助がもらえるということで、財政的にも良い面がありますものですから、何とか具現化するためにいろいろ計画を立て

ていきたいと思っているところです。

このペーパーのちょうど真ん中よりちょっと下に※印がありますけど、国の決めでもですね、東京都自立支援協議会に協議、いわゆる相談をして自立支援協議会からのアドバイスを得て、これら体制整備を進める必要があるということが書かれているので、それを含めまして是非、次回、6月ですかね、次回以降、来年度の中で新たな協議会のメンバーの方にご意見をお伺いしたい。

アドバイザーによる助言のイメージは、これ我々のほうで資料に4つ書かせていただいておりますが、小阪委員によりお話のありましたピアサポーターの活用も、まさに重要な点でございますので、そちらについても是非入れさせていただいて、いろいろとご意見も伺う中で、相談体制の充実に向け、何をアドバイスしていくかということについても考えていきたいと思っています。

今後のスケジュールですけれども、次回、令和4年度のこの協議会の第1回本会議にて案についてお示しし、いろいろご意見お伺いしたいと思っております。それから、ちょっと感染状況にもよりますけれども、メール等も使いながらご意見いただきながら、東京都の内部事情ですけれども夏頃に来年度予算要求がありますので、そちらに向けて取り組んでいきたいと考えています。秋口から、具現化しそうであれば具体的なお願いもしようと思っています。

今日は、取りあえず来年度の事前のあらましというかご紹介ということで、お話をさせていただきました。また引き続きよろしくお願いたします。

お時間いただきありがとうございます。以上です。

- 森山副会長 佐藤委員ありがとうございました。皆様ご参考にしていただければと思います。

本日の議事は以上です。最後に事務局から、連絡事項等お願いします。

- 森下課長 長時間にわたり、委員の皆様には貴重なご意見を多数いただきまして、誠にありがとうございました。また、岩本会長ご欠席の中、会長の職務代理を務めていただきました森山副会長をはじめ、秋元副会長、石川副会長には、本会議運営にご協力いただき重ねて御礼申し上げます。

本日、委員の皆様からいただいたご意見を基に、まずは、令和3年度版東京都内の自立支援協議会の動向調査を実施し、来年度に向けて調査結果の取りまとめを行いたいと思っております。委員の皆様には引き続き、メーリングリスト等を活用しながら、東京都自立支援協議会活動にご協力の程よろしくお願いたします。

事務局からは以上になります。

- 森山副会長 ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、本日の本会議を終了いたします。

委員の皆様、長時間ありがとうございました。

(午後3時6分 閉会)